

宇宙の熱死：19世紀の宇宙論をめぐる科学と文化

稲葉肇 Hajime INABA

■講座概要■

「宇宙のエントロピーはある最大値へと向かう」—1865年、ドイツの物理学者ルドルフ・クラウジウスは熱力学の第二法則をこのように表現しました。エントロピーが最大値に達した状態は、生命が存在することができないため、熱死状態と呼ばれます。したがって、もし熱力学の第二法則が宇宙全体にあてはまるのであれば、宇宙もやがて生命の存在しない熱死状態となるでしょう。この、黙示録にも似た響きを持つ熱死宇宙論は、物理学界を超えてきわめて大きな反響を呼びました。たとえば、神学者のグートベルグは、熱死宇宙論が聖書の記述と整合的であると論じ、科学と信仰を調和させようとしていました。その一方で、唯物論の立場から、宇宙は無限かつ永遠であるとした社会主義者たちにとっては、第二法則は危険で誤っているものでした。また、物理学者にして哲学者であったマッハは、宇宙全体に第二法則を適用することは、そもそも無意味であると考えました。今回の講座では、宇宙の熱死をめぐる19世紀後半の科学者・哲学者・神学者の見解を取り上げ、科学だけでなく、科学をとりまく文化をも扱う科学史の世界の一端をご紹介します。（稲葉肇 記）

【日 時】 2016年7月23日（土）14:00開演（13:30 開場）

【会 場】 BUNCADEMY（東急東横線 学芸大学駅 東口から徒歩1分）

【住 所】 〒152-0004 東京都目黒区鷹番 3-1-3 リエール鷹番303号

【受講料】 一般1,500円／学生1,000

【ご予約・お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp



■講師プロフィール■ 稲葉肇／Hajime Inaba

1985年、愛知県知多市出身。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士論文“Historical Investigations into the Development of Classical Statistical Mechanics”（古典統計力学の発展の歴史的探究）により博士（文学）を取得。京都大学文学部非常勤講師、マックス・プランク科学史研究所客員研究員（ドイツ学術交流会（DAAD）長期研究・留学奨学金による）を経て、現在、日本学術振興会特別研究員PD（東京大学大学院総合文化研究科）、東京大学教養学部非常勤講師、日本大学芸術学部非常勤講師。19世紀後半から20世紀初頭にかけての欧米における物理学の歴史を主たる専門とする。日本科学史学会、History of Science Society、日本物理学会、応用哲学会のメンバー。訳書にヘリガ・カーオ『20世紀物理学史：理論・実験・社会』（名古屋大学出版会、2015年）がある。

